

育児と高齢者介護を支援する性別役割分業を超えた社会的システムの形成
(第3報) 働く女性を支える保育所の実態

○大倉聖子*浅田幸子**磯部美津子*³榎並英子**佐渡君江*⁴永原朗子*⁵
原田寛子*⁴吉見泰江*⁵山本真一*⁷渡辺廣二*⁸
(*中国短大**ノートルダム清心女大*³島根県立女短大*⁴四国大*⁵山口大
*⁶就実短大*⁷島根大*⁸鳴門教育大)

目的 性別役割分業を前提とせず、特に女性の就労の増加の現状をふまえた上で、育児と高齢者介護のための社会システム形成について研究してきた。前報の「行政の現状」に引き続き、本報においては、働く女性を支える保育所の実態について、報告する。

方法 中国地区4県8市の多様な保育サービスを実施している保育所40園で母親を対象に、1996年9月に留置自記法による調査を行った。有効回収数は1607、有効回収率は74.4%である。

結果 対象者の保育所種別は、公立30%、民間50%、無認可14%、院内6%である。仕事と子育ての両立のためには、乳児保育、延長保育、病児保育などの多様な保育の必要性をあげているものが最も多い。保育所を利用して、子育てと仕事の両立で困ることは、子供が病気になった時67%と最も多く、続いて休園日と就業日のずれ、保育料の問題、自分の病気、保育時間と就業時間のずれ、である。延長保育は、17～18時未満が44%、18～19時未満が23%、8時以降は3%が利用している。病児保育は、保育所で10%で、病児保育所は2%程度である。休日対応の保育所・夜間保育所とも少ない。保育料は3～5万円が多く、6万円以上の負担者が約10%いる。負担意識は金額と必ずしも一致しない。乳児保育は今回の対象保育所ではすべて受け入れているが、人数は全体の1%である。公立と比較し、民間の保育所の方が、多様で柔軟な対応が見られる。